

立ち読み版

「人生は楽しむ物さ
いつも変わらずOK？」

紅白出場歌手×プロレスラー×農業



【写真提供】 Sigma Sounds Studio

Interview

ヒップホップグループ「nobodyknows+」 ノリ・ダ・ファンキーシビレサスさん

本名、岡村典幸。1980年、愛知県名古屋市生まれ。ヒップホップグループ「nobodyknows+」(ノーバディーノーズ)のMC。「nobodyknows+」は、1999年に名古屋で結成。2004年5月リリースのシングル「ココロオドル」が全国で一躍有名になり、1stフルアルバム「Do You Know?」が80万枚を超える大ヒットとなった。同年NHK紅白歌合戦出場を果たす。2012年から愛知県より「あいち音楽大使」を委嘱。2010～2013年、2017年には中日ドラゴンズ/チアドラゴンズのオフィシャルテーマソングを担当する。個人としては、2010年にプロレス興行「今池プロレス」でプロレスラー・デビュー。神奈川県を中心に活動するプロレス団体「HEAT-UP」のリーグ戦『灼熱王バトルリーグ☆2017』で優勝。その後、「HEAT-UP」の2代目王者となる。2018年にプロレスラーは引退。2010年に八百屋をオープンしたことをきっかけに、現在、愛知県長久手市の株式会社タスクファームで農場長を務める。

【取材・文・写真】 佐藤 俊一 中小企業診断士／事業承継士

Interview >>> Nori Da Funky Sibiresath

— The prologue

表題の「人生は楽しむ物さ いつも変わらず OK?」は、2015年にnobodyknows+がリリースした「いい歳こいて」の一節だ。この曲では、当時40代を目前にした彼らが、生きざまをテーマに今の等身大の気持ちと今後の想いを歌っている。

2004年に紅白歌合戦に出場し、全国47都道府県ツアーの成功などヒップホップ・シーンの真ん中にいたnobodyknows+。人気絶頂の当時も名古屋を離れず、デビューから一貫して名古屋を拠点に活動を続けている。大小さまざまなイベントに出演し、ステージ

上では観客との距離感をグッと縮めるパフォーマンスを見せる。

音楽業界が不況な昨今、音楽専業で活動を続けられるミュージシャンはほんの一握りしかない。nobodyknows+のメンバーも、地元で居酒屋やアパレルショップの運営に携わる、いわゆる兼業アーティストだ。その中でも、プロレス・農業を兼業とし、異彩を放っているノリ・ダ・ファンキーシビレサス氏にお話を伺った。テーマは、ずばり、地域を元気にする“音楽×プロレス×農業”。そして彼の生きざまだ。



中小企業は 独善的であれ！

—現在の活動を教えてください。

平日は9時から18時まで、名古屋駅から電車で40分程のところにある愛知県長久手市の株式会社

タスクファームの農場長として働いています。週末は主にライブで、今年は年間30～40本くらいやりました。地元を中心に、北は北海道から南は九州まで。最近では全然、曲を出していないのに、呼んでくれるのはありがたいです。昔、聴いてくれていた人が偉くなって、タイムカプセル的に呼んでくれているのかもしれない。そういうのも、うれしいですね。

続きは雑誌で